

整理番号	46-4	事務事業名	(青少年健全育成事業)北広島市子ども会育成連合会補助事	作成部署	生涯学習部 青少年課	電話	内線607	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	川原一志	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S.56年	根拠法令等	北広島市教育関係団体補助金等交付規則					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	各町内会ごとに設立されていた子ども会の連携・連絡調整及び情報提供・支援などを行うため組織された。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	豊かな心と個性ある文化を育むまち	(第4章)
	節	社会教育	(第3節)
	施策	青少年の健全育成	(第6施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	北広島市子ども会育成連合会(子ども会28団体、1888名)	
	意図 (何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか)	市内の各子ども会の連絡調整を図るとともに、単位子ども会の発展向上と青少年の健全育成を推進する。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	活動内容 1.道子連安全会加入促進事業 2.育成者研修の実施 3.ワクワク公民館子どもまつりへの参加 4.自然体験活動事業の実施 5.チャレンジジュニアスクールへの参加(宿泊体験2泊3日) 6.石狩管内地域子ども会育成連絡協議会及び北海道子ども会育成連合会事業への参加協力
		17年度	平成16年度をもって組織が解散したため、17年度は市内の子ども会の設置状況や活動内容の調査を行い、支援策を検討する。

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

	区 分	15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予定)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	500	475		
	合 計	500	475		
人件費 (概算)	人数(年間)	0.01	0.01		
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000		
	= ×	90	90		
総事業費 +		590	565		

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会議・事業開催日数(日)	15	15		
	加入団体数	31	28		
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	会議・事業開催日数(日)	15	15		
	加入者数(人)	1820	1758		
	小学生生徒数(人)	3,718	3,700		
	加入率	49.0%	48.0%		
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	会員1人当たりコスト(単位:円)	324.2	321.4		
	(事業費/会員数)				

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測、他市町村の動向等	少子化、核家族化とともに、単位子ども会の減少や指導者の不足から、地域交流事業や子ども同士の集団活動の機会が少なくなってきており、地域の大人と子どもが触れ合える機会も少なくなっている。また、子どもたち自身が自然・社会体験や集団による生活が不足していることから、社会的自立や協調性を育む意味からも、子どもを中心とした活動団体の育成支援が必要である。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありますか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	子どもの健全育成の推進は、市が実施すべき事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	子ども会活動から地域住民の自主性・地域性に配慮した工夫が見られたが、計画した体験学習(洞爺少年の家)の参加者が減少した。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	近年、少子化や生活の変化により、子ども会への加入者が減少しており、また、加入する団体も減少している。子ども会に加入していない子どもの実態を把握するとともに市内の子ども会の状況を調査する必要がある。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	会費及び参加負担金を徴収しており適切である。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	15年度より宿泊自然体験学習を導入しプログラム等の改善が図られた。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト節減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	16年度参加者が減少した。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	子ども会育成連合会が解散したことから、今後、各子ども会への支援策を検討していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	46-4
------	------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	北広島市子ども会育成連合会補助事業		
交付先の名称及び代表者名	北広島市子ども会育成連合会 会長 立崎弘昭	設立年	昭和56年
構成員(団体)数	子ども会28団体 会員数1,888名 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	市内各子ども会組織の連絡調整、各子ども会の発展向上と青少年の健全育成		
交付先団体等の活動内容	1.道子連安全会加入促進事業 2.育成者研修の実施 3.ワクワク公民館子どもまつりへの参加 4.自然体験活動事業の実施(日高少年自然の家) 5.チャレンジジュニアスクールへの参加 6.石子連、道子連事業への参加協力		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)
収 入	本市補助・交付金の額(A)	500,000	475,000	
	会費	340,500	320,600	
	諸収入	19,700	0	
	その他(事業参加負担金)	326,850	133,655	
	繰越金	18,738	8,038	
	収入合計(B)	1,205,788	937,293	
支 出	研修費(育成研修)	57,850	29,655	
	旅費	69,180	46,820	
	負担金	239,300	232,100	
	会議費	26,712	13,921	
	活動費	731,563	583,723	
	事務費	53,445	31,074	
	その他(雑費)	19,700	0	
	支出合計(C)	1,197,750	937,293	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	8,038		
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		42 %	51 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		研修費、旅費、負担金 会議費、活動費、事務費	研修費、旅費、負担金 会議費、活動費、事務費	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		1,178,050	937,293	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		42 %	51 %	
補助・交付金の算出根拠	定額(14年度 555千円、15年度 500千円、16年度 475千円)			